

開 会

委員長　それでは、定刻になりましたので、今年最初でございますが、定例会議を開催させていただきたいと思ひます。

特に改めて申し上げることもございませぬが、年が改まりましたので、また私どもも新たな覚悟と、それから、いろいろ厳しい現状にございませぬが、そういうものを踏まえつつ、またこの1年進めてまいりたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ご承知のとおり、本市では教育改革市民懇話会を鋭意事務局のご努力で進めておりまして、ほぼ最終的な段階に入っております。それで、順調にまいりますと2月21日に教育長あてに答申が出るという運びになりました。これもご承知のとおり、昨年1月に文部科学省がレインプランというのを出しました。その前の12月に教育改革国民会議が出しました17カ条の提言に基づいた小プランをつくりましたので、本市としましても、市民懇話会の答申を踏まえつつ、4月から具体的な教育改革のアクションプランを樹立、策定して、それに基づいて進めてまいるといふ運びになろうかと思ひます。この点では、ことしはまた新しい第一歩を踏み出すことになろうかと思ひますので、そういう点もひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

議事録署名委員の選任

委員長　開会に当たりまして、本日の会議録の署名人を檜山委員にお願ひいたします。

議案の提出

委員長　それでは、日程に従いまして議事を進めてまいります。本日の議題は、議案1件と報告になっております。

議案第26号

委員長　早速ですが、議案第1号「松戸市立高等学校管理規則の一部を改正する規則の制定について」を議題といたします。どうぞ事務局からご説明ください。

市立高校担当室長　議案第1号「松戸市立高等学校管理規則の一部を改正する規則の制定

について」でございます。

提案理由、学校評議員制度の導入に伴う所要の改正を図り、市立高等学校に学校評議員を配置できるようにするものです。

松戸市立高等学校管理規則の一部を次のように改正する。

第12条の次に次の1条を加える。

第12条の2 学校に、学校評議員を置くことができる。

2 学校評議員は、当該学校の職員以外の者で教育に関する理解及び識見を有するものの中から、校長が推薦し、教育委員会が委嘱する。

附則。

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

以上です。よろしく願いいたします。

委員長 どうもありがとうございます。

お聞きのとおりでございます。これは新しく追加するわけですね。

市立高校担当室長 条文を新しく追加するものでございます。

委員長 お手元の資料をごらんいただきたいと思いますが、改正前と改正後の表がありまして、改正後、要するに第12条の第2項として「学校に、学校評議員を置くことができる」と。

何か先生方、ご質問ございますか。

飯沼委員 人数と期間なんかはどういうふうになっているのでしょうか。

市立高校担当室長 この規則改正につきまして要綱を定める予定にしておりますが、現在のところ、人数は5人以内、任期といたしましては委嘱された日から翌年度の3月31日、最長2年まで考えております。

飯沼委員 再任はできるんですか。

市立高校担当室長 再任については予定しておりません。

委員長 これは小中学校はもう済んでいるわけですね。

学校教育担当部長 はい、できております。

委員長 それにならうという形でしょうか。

学校教育担当部長 はい、そうでございます。

委員長 これはできますと、早速実施しようという考えなんですか。

市立高校担当室長 実施できればと思っておりますが、学校長の推薦によりまして教育委

員会 が委嘱するものでありますので、4月1日から改正規則が施行されますが、4月1日から即というわけにはいかないかと思えます。なるべく早い期間に委嘱できたらと思っております。

教育長 おおよそいつごろから準備を始めて、いつごろに立ち上げるか、その辺の見通しは。

市立高校担当室長 申しわけないですが、まだ見通しは。

教育長 規則改正の動機を。

市立高校担当室長 千葉県におきましては、学校評議員の配置は、現在、市立千葉高校のみで、公立高校におきましてはほかには1校もないのが現状です。これは、県教育委員会で県内1,000カ所ミニ集会という、地域の住民の方と年に何回か集会を持って、そこで地域と学校との間でコミュニケーションを図っております。そういうことがありまして、学校評議員については目的が近いものがあるというか、そういう意味合いで県立高校には現在学校評議員が配置されていないものですから、そういうこともありまして市立高校にも今まで配置されておりました。

目的として、地域に開かれた学校づくりを目指すという共通目的がありますが、ミニ集会につきましては、地域の住民ですけれども、不特定の方のご意見をいただくということで、学校評議員につきましては、教育に理解と識見を有する特定の方をお願いして責任を持って学校経営に関するご意見をいただくということでございます。目的は同じでも性格が違います。これにつきましては、松戸市小中学校では現在20数校実施しておりますし、同じ市立学校ということで、少なくとも市立高校で評議員を置きたいというときには置ける体制を整えておかなければならないということをお願いすることになりました。

教育長 教育委員会の基本的な方針としては、早期に学校評議員制を導入して、さらに開かれた学校にしていくという考え方ですから、早急に市立高校でもこの評議員制度を立ち上げるよう方針に従ってもらいたいと考えています。

1,000カ所ミニ集会のねらいは今室長がお話ししていたとおり、開かれた学校を推進するためであると同時に、学校評議員制度を導入するための導火線、呼び水としたいという意図があるわけですから、評議員制度につなげていくという努力をしてもらいたいと考えています。

委員長 そうですね、とりあえずこういう体制だけは整えておくという考えのようだけれども、やはり今教育長の言われたとおり、それから、私もかねがね地方分権の流れの中で

地域に根差した自立する学校というものを考えるときに、それをどう実質化していくのか、そういうことを積極的に進めていくべきだろうと思います。

きのうも市民懇話会で学校評議員のことがちょっと出ました。必ずしも明確な、どういうふうにそれをどう進めていくかということのご議論は、私もうかつでよく聞けなかったんですが、やはりもう少しこれを前向きに積極的に進めていくことが、現在の教育改革を進める上でも望ましいことだろうと思いますね。

ただ、市立高校になりますと、これは全市を対象にした評議員を考えなければならないから、何かそこら辺、狭い領域をカバーしている小学校、中学校とちょっと違う視点が要るだろうと思いますね。ですから、そういう点でなかなか人選等難しい点もあるだろうと思いますけれども、そこら辺は、校長先生、それから教育委員会と学校教育担当部長なんかともよく相談なさって、これを前向きに、有効に生かしていく、そういう方向でお考えになった方がよろしいと私も思います。

先生方、いかがですかね。

飯沼委員 先生のおっしゃるとおり、松戸の代表校ですから、松戸市の教育全般の反映が高等学校に出てくるわけでしょうから大変だと思いたしますが。

委員長 何か校長の任意の判断というんでしょうか、任意に任せられているということで余り進んでいないところがありますよね。今実際にはどうなんですか、小中の現状は。

学務課長 小学校21校、中学校5校でございます。

学校教育担当部長 基本的には、教育長も前からおっしゃられていましたように、一斉にというわけではないんですが、できれば平成14年度末ぐらいまでには何とかしていただきたいという要望は学校長の方にはしてありますけれども、人選とかいろいろな形でちょっとおこなっている部分はあるかと思えます。鋭意、それぞれの学校で今人選をしているところではないかなと思えます。

委員長 小学校は割と進んでいるわけでしょう。

学校教育担当部長 中学校がまだ5校ぐらいですので、今こういう教育改革が進んでいる中でございますので、開かれた学校、それから地域の人たちの信託を得るためには、やっぱりそういう制度をうまく利用し、学校経営に当たらなければいけないものですから、いろいろまた、学校評議員制度について、特に委嘱を早くして学校経営に当たるようにと、校長会でも話をさせていただきたいと思えます。

教育長 教育委員会が委嘱状を出しておりますので、一度評議員さん方と意見交換をして

みたいなど、私はそういう希望があるんです。

学校教育担当部長 承っておきます。いろいろな方たちなものですから、日程的なものがありますが、可能かどうかちょっとやってみたいと思います。

教育長 できれば教育委員さんとの懇談会を。

学校教育担当部長 わかりました。

まず、全校に早く学校評議員制度を立ち上げたいということで、もう一度校長会の方にもお話をさせていただきたいと思います。

委員長 それから、こういうことについてもやはりある程度評価が必要でしょうね。本当に効果を上げているのかどうかね。

飯沼委員 小中学校の場合もこの評議員の人数とか、期間とかというのは同じような……。

学校教育担当部長 同じです。一応5人以内ということで。それから、委嘱した次の年度の3月までということで、再任は基本的にしないということです。

飯沼委員 最長2年という形。

学校教育担当部長 はい。そういう形でやっております。

委員長 それでは、この規則について、これはもうこれを進めることは異議のないところだろうと思いますので、採決させていただきます。

議案第1号の「松戸市立高等学校管理規則の一部を改正する規則の制定について」、これは原案どおりご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 それでは、ご異議ないものと認めまして、原案どおり決定させていただきます。

きょう提示いたしております議案はこの1件でございます。

報告等

委員長 引き続き報告の方へ入りたいと思います。

社会教育課長 平成15年の成人式についてご報告をいたします。

当日のご参加、改めてありがとうございました。

好天に恵まれまして、対象者5,389人に対しまして出席者3,032人、出席率で56.3%でした。我々、過去の平均から見まして50%前後だろうという予想をしておったのですが、予想以上の盛況でした。

過去5年間の経過ですけれども、大体50%前後で、特に大きな傾向というのはなかったんですが、去年、ことしにかけてはこういうような上昇がありまして、ほかの市でも極端にことしは高いという市がありまして、何かそういう流れがあるのかなという感じがしております。

それから、成人式の協力者ですが、新成人のボランティアスタッフを含めまして92名が当日働いていただいております。そのうち、特に新成人につきましては、市内の中学校、高校を中心にしまして推薦をいただきまして、29名の方が式典と受付を担当しております。そのために企画もすべてボランティアで行ったわけですけれども、相当の回数を重ねて練り上げて当日に臨んだという結果になります。

それから、激論大バトルというところで、特にこれは将来というところで映像を出したわけですが、角野直子さんが、宇宙開発事業団ですが、快くインタビューに応じてくれて、あれだけ長い映像を使うことができました。この方の位置づけとしては夢をかなえてしまった人。それから、美容師を目指して少し将来が見えてきている人。ボーカルグループですけれども将来が見えなくて不安の中で今頑張っている人、そんな構成で行いました。

一つ我々としては予想外だったんですが、ことしは第1ステージのアトラクションの部分から既に満員になってしまいまして、例年、あそこは入らなくて、もったいないよねと言っていたところだったんですが、そこが満員になっていて、そのかわり、そこがスタートになって、市長のあいさつがエンディングになってしまったような感じでして、市長のあいさつと同時にだあっと出ていっちゃったんですね。あれはちょっと意外でした。構成の問題では反省をしなければいけない部分もあるんですが、せっかく頑張ったボランティアにとってはちょっと気の毒だったかなというようなことです。

いろいろな心配もしましたけれども、とりあえず平穩に行われましたので、改めてお礼を申し上げて、報告にさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

委員長 どうもありがとうございました。

毎年毎年、結果がどうなるかという心配の中で社会教育課を中心に大変な努力をいただいで。この新成人を主体に企画をし、かつ会を進める、こういうスタイルが結局いいようですね。松戸市は随分前からこれを始めているわけでしょう。新聞なんかでは、去年あたりから新成人を主体的に企画に使うのが、いかにも新しいようなやり方で書かれていましたけれども、松戸市はもっと早くからやっていたなとちょっと思いました。

来年もこういう形でと考えていらっしゃる。

社会教育課長 基本的には大きく変えるつもりはありません。活力もありますし、むしろ成人式自体の政策目的と、あわせてボランティアスタッフも人材養成というような位置づけをしてもいいのかなというところまで考えております。私も最近知ったんですけれども、過去数年間のボランティアの経験者が青少年会館で活躍しているというような事例がありまして、それはそれで将来に向かって大変いい方向だと思いますので、今しばらく続けてみたいと思っております。

委員長 そういうノウハウもだんだん経験に基づいてつくっていらっしゃると。

社会教育課長 だんだんおじさんたちが声をかけづらくなっちゃうんですね。これやっちゃいけないとか、やっていいとか、どうだと聞かれるんですが、ノーと言うときに非常に度胸が要りますね。

委員長 本当に大変努力なさって、ありがとうございます。考えてみると、随分ふえましたね。56.3%ですから。やっぱりあれだけテレビでいろいろ問題がクローズアップされると、彼らは彼らなりに少し考え直してきたんでしょかね。余りあられもないことはしない方がいいと思出したのか。

ありがとうございます。

先生方、何かご質問ございますか。感想は。

根守委員 ちょうど私の教え子というか、卒業証書を渡した子たちがスタッフにいらしてありまして、自分たちで企画をしたというようなことで、誇りを持って一生懸命やっていたようです。

年々出席者の率が高まっているというような中で、いろいろなイベント、大人が決めるのではなくて、自分たちで決めていくというようなことに誇りを持って一生懸命やっているという様子がうかがわれました。式典とかイベントが、特に4階の展示の方なんですけど、中学校の先生方のコメントですか、「成人おめでとう」とか、それから思い出に残るようなコメントがありまして、新成人の方々が見てありまして、「懐かしいなあ」というなことをお話ししておりました。

それで、出ている中学校の先生方のものはいいいわけですが、出ていないところの成人の方々は、「うちの学校は出てないんだよな」というようなことを言うておりましたので、来年あたりは、もし展示ということになりましたら、校長の一言、担任の一言でもいいから、各学校同じく展示した方がいいなというようなことをちょっと耳にしましたので、来年は考慮していただければと思います。すごく喜んで、懐かしがっていました。

やっぱりそういう中学校時代のこと、小学校時代のことなどを思い出すというのは、そこには、自分たちが成人するまでの過程に感謝の気持ちがあらわれているものだと思いますので、できれば問いかけて一言いただければ、展示していただければと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございました。

飯沼委員 私もこれで10回以上、成人式はずっと見てきていますけれども、教育長がおっしゃったとおり、平成10年から自主的に成人がプログラムを組むようになってから見違えるように変わってきて、私は大変感動して、今回はロックソーランの出演者の演技を見させてもらいました。なかなか迫力があって、小中学校でそれぞれ鍛えた人もいるでしょうけれども、何か本当に成人を喜びながら、みんなで祝い合えるという雰囲気が出てきているように思います。昨年のゴスペルもすばらしかったと思いますし、若者のエネルギーが発散されて、将来に向かって夢につなげているような印象を受けて大変うれしく思っております。

企画の方は大変だったと思うんですけども、この中で一般ボランティアのスタッフが19名ということですが、これは毎年同じ人ではないんでしょうか。違う人が応募なさっているかどうかということと、あと、ロックソーランの出演者というのはどういうふうに使われていたのでしょうか。これをちょっと教えて下さい。

社会教育課長 一般ボランティアの方は大体8割ぐらいが同じ方が来てやったださっているような形です。

それから、ロックソーランの方は、企画の方のボランティアスタッフの中の人脈を使いまして、子供劇場の関係者が中にたくさんいらっしゃるということです。ですから、年齢層も小学生ぐらいから年配の方まで、相当広範囲の年齢でやっておられまして、そこは新成人のグループというのとは若干違ったわけです。

飯沼委員 先ほど、ボランティアスタッフの方が、その後もミーティングがあるようになって、松戸市民としての自覚というか、お互いに、成人式をきっかけに、松戸市をどうするかというような形で会う機会がふえていったらいいなと。せっかくあそこまで盛り上がって一生懸命つくったスタッフだと思いますので、もう少し新しい人も加わって、20歳を迎えた松戸市民としての自覚が広がっていくと、もっとすばらしくなるなと。せっかくいい機会ができたので、そういう可能性のある余韻を残してあげたいと思っています。

そういう意味では、スタッフの方も大変一生懸命やっていますし、社会教育課が一番骨を折っていると思います。やはり、教育の原点は、自分たちが自分で自覚して、自分ですると

ということでしょうから、そういう意味で、平成10年からの新しい企画がすばらしく実りつつあるなと思います。大変楽しみました。ありがとうございました。

教育長 一つだけ疑問があるんですよね。年々それなりによくなってきているし、この辺が限界なんだろうという思いもあるんですけども、一たん入って、何でまた出ていくんだろう。出たり入ったり、出たり入ったり常に、去年あたりからもう満杯に近いぐらい入っているんで、すごい成果だなと思っているんだけど、そろそろ出ていってしまう。出たいのなら最初から入るなと言いたいんだけどね。おもしろいと思ってきて、おもしろくないから出るというのはあるのかもしれないけれども、でも、ほかの成人たちが、あっ、おもしろい場面になってきたと身を乗りだすようなときに大多数が出ていくというのは、あれはどのような神経なんだろう。

社会教育課長 推測でありますけれども、座っていただける限度の時間が大変短いのではないかと、少しいつを少し思っております。プレセレモニーから入って行って、市長の話で出てしまったのは、多分、舞台の流れというよりも、彼らにとってはそれが一区切りの時間だったのではないのかなというようなことを思っております。

それから、もう一つは、要は公設の同窓会ですから、どこかできっと、式典の途中で携帯で連絡がとれちゃったとかそういうことがあると、「あっ、来てる、来てる。出ていこうか」

というようなことが起きる。それから、施設の外と中も行った来たりです。そういうことで、絶えずごちゃごちゃ、全体がいつでも動いていて、ぴたっととまることがないんですね。恐らくそういうことなんだろうと。それで、時間がたちますと、和服の女性が階段に座り込んで足を組んだり、体育座りしているんです。だいたい、服装自体がじっとしていられたようなトレーニングをされている服装で来ておりませんから、多分、座っても、帯で寄りかかれなとか、そういうようなことがいっぱい重なっているのではないのかなと思います。

ただ、片方は、我々の政策の願いと彼らが来ている気持ちというのは相当落差があります。彼らはお祭りで来ていますから、その辺の違いというのは許容範囲として見るしかないのかなと思っておりますが、確かに気にはなります。

教育長 僕の後ろに座っていた五、六人の女性集団と右手にいた六、七人の男子の集団というのは、最初から最後まで微動だにせずに座っていました。そういうことのできる成人もいる。多様化。座っていただけるのは大体20分ですかね。一般的に成人がじっと座っていただける限界というのは。

委員長　私もペシミストですね。やっぱり自分の置かれたあるシチュエーションというものに対する自覚がないんですよ。そこら辺で、やはりここで市長の話が始まるならば、少なくとも恐らく5分か10分の間そこはきちんと聞いてという、そういう礼儀というものの根本がないんでしょうね。それはもう学校教育じゃなくて、何か日本の社会全体がたるみ切っちゃって、大人も無責任、子供も無責任というか、自分がどういう立場にあって、どういうときに、どう振る舞うべきかという基本的なものがないんですよ。かつての日本にはそういうのがちゃんとあった。そういう、そこら辺の、どう言ったらいいのか、日本は崩壊寸前じゃないのか。それはちょっと余りにもペシμισティックな話になっているけれども。

皆さんよかったとおっしゃっていながら、余りよくないなんていう結論になっては困りますが。ただ、本当によく努力してくださって、だんだん格好がついてきたというのはいいことだと思います。もう少しだんだんとよくなるだろうということをそこは期待して。

その他

社会教育課長　社会教育課からお願いします。

委員長　どうぞ。

社会教育課長　今年度、社会教育課の最後の大きな行事になります第29回松戸市書道展ですが、けさも運営委員会をやりましたけれども、2月18日から3月2日まで、松戸市文化ホールで開催いたします。主催は松戸市教育委員会と書道展の運営委員会です。

例年の動きですと、出品者数が約220人前後、作品の点数も同じです。それから、観覧者数が千二、三百人というようなところで、約2週間の会期で行います。

それが終わりました後、市展賞以下、特別賞につきまして、市民ギャラリーに場所を移しまして11日間の展示をして、会場に来なかった方につきましても優秀作品を見ていただくというような仕掛けをしていきたいと思っております。

ぜひごらんください。ご案内です。よろしく申し上げます。

委員長　ありがとうございます。

企画管理室長　もう1件、戸定の方から報告させていただきます。

戸定歴史館長　戸定歴史館からよろしく申し上げます。

8月8日の教育委員会会議の席で徳川文武氏がお持ちになっているものについて、12月の議会に提出して、議決をいただいたら取得させていただきたいとご説明をさせていただいた

わけですけれども、それが延期させていただくことになりました。理由でございますが、その間、徳川文武様から、特に自分で持っている中で思いの強いもの、戸定歴史館において非常に大事なもの、そういうものについて、価格に関係なく、別にご寄贈、市の方へくださるというお話を賜りました。大変ありがたいことで、どういうものをいただけるのか、そしてそのいわれなどについていろいろお話を承っております。

もう一つの理由は、私の方で今寄託を受けているものの中に薩摩切子がございます、これについてはどうやら想定していたより高価なものであるようだという見方もあり、これは薩摩切子の専門家に見てもらったらどうかとか、また、それは具体的な交渉に入る前に薩摩切子については徳川文武氏にお話させてもらったらいいのではないかとということで、いろいろお話を進めているうちに、博物館等資料選定委員会の委員さんの会議日程調整がつかなくなりました。

そういう理由で、変更させていただきたい。それで、12月議会ではなくて3月議会に提案させていただくべく、進めさせていただきたいと考えております。

概略を説明申し上げますと、1月の中旬に徳川氏との最終交渉をしながら、今お話申し上げたような、ご寄贈いただくものであるとか、薩摩切子などについてのお話をさせていただきます。今徳川様も非常に屈託なくお話をしていただきまして、順調にお話も今のところ進んでおります。

きょう、この説明をさせていただいた後、市長部局の方へ3月議会の議案の要旨を提出させていただきます。

1月26日の日曜日でございますけれども、第1回の松戸市博物館等資料選定評価委員会を開催させていただきます。

この第1回目の資料選定委員会のときに、ご寄贈いただくものを除いて取得物件の一覧表を提出させていただきます。その後、これが終わりますと、2月の中旬になると思いますが、個々に議長さん、副議長さん、そして教育経済常任委員会の委員長さん、副委員長さんと各会派の幹事長さんには説明をさせていただきたいと思っております。

2月18日に第2回目の松戸市博物館等資料選定委員会を開催させていただきまして、このときにお幾らでこれを取得させていただけばよろしいかということについてのご判断を賜りたいと考えております。数字が出ますれば、私どもの基金で取得をさせていただきたいと思っておりますので、この取り崩しについて、こういうものを取得させていただくために美術品等取得基金を取り崩させていただきたい、こういうことを私どもの竹内委員長に松戸市美

術品等取得基金委員会に出席していただいて説明をお願いしたい、と思っております。この後、価格が決定すれば、当然また、議会開催前に各議員さんには説明をしなければならないと思っております。

2月の下旬になりましたら、本部長、そして斎藤学芸員が徳川文武氏のところへお伺いしまして、議会の議決が得られましたら本契約に移りますということの条件付きの仮契約を締結させていただきたい。

それをもって、2月24日に市長部局から議会へ議案の提出をお願いしたい。そして、3月13日、3月17日に各委員会を経て、3月27日、本会議最終日に議決をいただいて、4月に徳川文武氏にお支払いができれば、ということでございます。

ひとつよろしくお願いします。

委員長 ありがとうございます。

要するに、寄贈していただくものと、市として買わせていただくものの、それは区別をもうきちんとなさった。それで、基本的に徳川さんのご了解を得たということですね。

戸定歴史館長 はい。

点数としましては、特に徳川さんのご了解をいただいたものの中に、例の葵の紋の入った写真入りの金時計も含まれております。それで、徳川さんとお話しした中では、そういうものも含めて、工芸が7点、写真が10点、文書が5点、合計22点いただけるというお話を聞いておりますので、このものを差し引いて、それで価格の値づけをしたいと思っております。

委員長 ご質問ございますか。

一応、今順調に進んでいるわけですね。

教育長 議案を提出して、いよいよ契約を締結すると、額も額だし、マスコミも注目すると思うんですが、プレス発表に対して徳川さんはどういう感想を持っておられますかね。

戸定歴史館長 自分がお持ちになっているものは、自分のものであって自分のものでないという気持ちでいらっしやいまして、ずうっと長い間保存したいという気持ちでございますから、やはりそういう、徳川さんの考え方を大切にしながら、私の方でもそれを引き継いで、取得して保存したいということで、また今後もそういうことを大事にしていきたいと思いません。

委員長 ありがとうございます。

次回の教育委員会会議の日程について

企画管理室長 次回の日程でございますけれども、2月6日の木曜日、午後2時からこの5階の会議室で行わせていただきたいと思いますが、いかがでございますでしょうか。

委員長 ちょっと確認いたします。2月6日、木曜日、午後2時から、よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

閉 会

委員長 それでは、これで閉会させていただきます。

閉会 午後 4時25分

この会議録の記載が真正であることを認め署名する。

松戸市教育委員会委員長

松戸市教育委員会委員

